

研究者 (5) 情報システム工学科



情報システム工学講座
教授
とりやま ともじ
鳥山朋二
(1961生)
博士(工学)

経 歴

富山大学工学部電子工学科卒業(昭60.3) / 富山大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了(昭62.3) / 富山県立大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平17.3) / NTT電気通信研究所(昭62.4~平17.3) / ATRメディア情報科学研究所主幹研究員(平17.4~18.3) / ATR知識科学研究所知識入出力研究室長(平18.4~20.3) / 金沢大非常勤講師(平11~18) / 三重大非常勤講師(平17~18) / 立命館大非常勤講師(平19) / 富山県立大学工学部教授(平20.4~) / 富山県立大学計算機センター所長(平30.4~)

担当科目 論理回路 / インターネット工学 / 情報電子デバイス工学 / システム設計開発工学 (大学院)

専門分野 インタラクショナルシステム / メディアコミュニケーション / ユビキタスセンサネットワーク

論文・報告
「インタラクションに基づく体験共有コミュニケーション」情報処理学会論文誌, コンピュータビジョンとイメージメディア, 2007.
「看護師支援のための行動識別による手指衛生必要状況検知システムの開発」日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.14, No.1, pp.29-38, 2009
「Ubiquitous Character Input Device Using Multiple Acoustic Sensors on a Flat Surface」20th International Conference on Artificial Reality and Telexistence, Adelaide, Australia, 2010
「看護師向け指差し呼称検知システムの開発」電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J99-D, No.2, pp.224-231, 2016.
「Detection System of Unsafe Driving Behavior Significant for Cognitive Dysfunction Patients,」HCI International 2017 Communications in Computer and Information Science, vol.713, pp.391-396, 2017.

特 許
「画像処理装置、画像処理方法及び画像処理プログラム」(特許第 4780564 号)
「運転動作解析装置および運転動作解析方法」(特許第 4780711 号)
「情報分析装置、情報分析方法及び情報分析プログラム」(特許第 4905651 号)
「音声認識装置及びコンピュータプログラム」(特許第 4947545 号)
「画像処理装置、画像処理方法及び画像処理プログラム」(登録特許 4780564 号)
「行動識別装置、行動識別システムおよび行動識別方法」(特許第 4992043 号)
「危険運転予防意識判定システムおよび危険運転予防意識判定方法」(登録特許 5499277 号)
「手指衛生励行システム」(登録特許 5097965 号)
「運転行動自動評価システム」(登録特許 5408572 号)「手指衛生行動状況検知およびアドバイシステム」(登録特許 5418881 号)
「患者行動識別方法及び患者行動検知システム」(登録特許 5867847 号)
「危険運転予防意識判定システムおよび危険運転予防意識判定方法」(登録特許 5691065 号)
「立ち上り動作測定システム」(登録特許 6097905 号)
「指差し呼称監視システム」(登録特許第 6098799 号)
「運転技能評価システム及び運転技能評価方法」(登録特許第 6502053 号)

所属学会 電子情報通信学会 / 情報処理学会 / ヒューマンインタフェース学会

学外活動 北陸情報通信協議会イノベーション部会(平26.4~) / 射水市情報公開・個人情報保護審査会委員(平26.11~) / 富山県学習者端末評価審査会委員 / 富山県ウェブサイトリニューアル検討委員会委員 / 富山県校務用LAN総合評価審査会委員 / 学習用端末総合評価審査会委員 / 生徒及び教員用1人1台タブレット端末(県立高校分)総合評価審査会委員

受賞歴 情報処理学会 第15回ユビキタスコンピューティングシステム研究会 優秀論文賞(2008) / The 23rd International Conference on Artificial Reality and Telexistence Best Poster Awards (2013.12)

現在の研究課題

1. 遠隔コミュニケーションメディアの研究
遠隔コミュニケーションを行うためにセンシング・通知などを行うメディアが使用される。また、情報を伝送するネットワークについても、目的となるコミュニケーションの特性に応じた機能・性能が必要である。目的となるコミュニケーションの特性に合わせて、既存センサやメディアの応用や改良等の研究を行う。
2. データ解析技術・ユーザーインタフェース技術に関する研究
データの取得、提示を利用者の負担や目的を考慮して行うためのインタフェース、及び取得したデータに意味づけを行い、目的に応じて分析・解析する手法・システムの研究開発を行う。
3. 各種教育支援システムや介護・福祉支援システムなどへの開発技術の応用に関する研究
上記で開発したメディアやデータの解析手法を共同研究等により介護・福祉教育現場で試用し、具体的なシステムに適用することにより、実用的なシステムの研究開発を行う。

共同研究

ユビキタス / センサ利用技術 / インタラクショナルシステム / 遠隔コミュニケーションシステム / 介護・福祉支援システム